

授業科目 精神看護学演習

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	看護
西川 薫、金谷 光子、平井 孝治		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	○	◎	○	
【概要・一般目標：G10】					
精神科看護の基礎となる患者理解に必要な知識と技法を修得する。 精神科看護の実践に必要な知識と技法を修得する。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
1. 患者理解において人間関係論の視点から述べることができる。 2. プロセスレコードを通して自己理解、他者理解、状況理解を述べるができる。 3. 事例検討を通して対象者を多角的に理解し看護の方向性について討議することができる。 4. アセスメントに基づいた看護計画を立案することができる。 5. 看護実践に必要な社会資源と技法について説明することができる。					
回数	授業計画・学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員		
1-2	援助技法としてのプロセスレコード	1, 2	講義、実習体験に基づいたプロセスレコードの作成、担当：西川 薫		
3-4	プロセスレコード検討会	1, 2	20 グループを編成し検討会を実施、全体討議、担当：西川 薫		
5-8	事例を用いた検討会（統合失調症、うつ病、境界性パーソナリティ障害）	1, 3, 4	グループに1事例を割り当てPBLを実施、担当：西川 薫 他		
9-10	事例（PBL）検討発表会	1, 3, 4	2会場にて発表会（発表：7分、質疑：5分、全体討議：20分）、担当：西川 薫 他		
11-12	その人らしさを理解し、意思を尊重する技術、症状アセスメントを育成する技法	1, 4, 5	講義、ビデオ、担当：西川 薫		
13-14	セルフケアの拡大に関する技法、対人関係能力の強化に関する技法	1, 4, 5	講義（SST、心理教育、認知行動療養）、ビデオ（べてるの家）、担当：西川 薫		
15	看護実践に必要な社会資源	4, 5	講義（障害者年金、障害者総合支援法：精神通院、高額療養費、グループホームなど）、担当：西川 薫		
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書		実践看護技術学習テキスト 精神看護学	野嶋佐由美	日本看護協会	2002・4,095円
		精神看護学2 精神障害をもつ人の看護	佐藤 壹三 監修	メヂカルフレンド社	2011・3,885円
		精神看護学 II 精神臨床看護学 [第5版]	川野 雅資 編集	ヌーヴェルヒロカワ	2010・2,835円
		精神看護学[2] 精神看護の展開(第4版)	武井麻子	医学書院	2013・2,310円
その他の資料					
【評価方法】		【履修上の留意点】			
各授業において記入したリフレクションシート： 10%程度 プロセスレコード、PBLへの取り組み：30%程度 課題レポート：10%程度 筆記試験：50%程度					